



▲鷹山公御手沢本の書棚と書籍

各本には繰り返し読んでできた手沢が見られるが、欄外の書き込みがあるのは一点のみ。書物を大切にみつかった鷹山の心が窺える。

郷土資料の散歩道

図書館

郷土資料室からの

おしらせ

☎ 21-61111 内線 6201

鷹山公御手沢本

上杉鷹山が愛用した本の数々

市立米沢図書館の書庫には貴重な書籍や古文書を収蔵していますが、その一角に「鷹山公御手沢本」という書棚があり、和書・漢籍や趣意書等二八六冊が整然と納められています。

「手沢本」とは「繰り返し読んで手沢（つや・手あか）がついた本、遺愛の書物」という意味で、鷹山が愛読した書籍群ということになります。

明治四十一年に（財）米沢図書館が設立された際、興譲館財団より藩校興譲館に伝わった図書約一万二〇〇〇冊が寄贈された中の一部で、市立米沢図書館に引き継がれてきました。

郷土資料の小径



本年4月より、図書館充実の一環として、新たに図書館に郷土資料室（置賜総合文化センター2階）が開設されました。米沢に関わる本や資料の収集・整理、資料の紹介、資料調査の相談等に当たります。

このページでは、隔月で図書館や地域の郷土資料をわかりやすく紹介してゆきます。このほか、市立米沢図書館ホームページ等で郷土資料や米沢の歴史等の情報を広く発信してゆく予定です。お楽しみに。

●市立米沢図書館ホームページ

<http://www.library.yonezawa.yamagata.jp>

郷土資料とは？

郷土米沢に関したあらゆる資料を意味しますが、図書館では主に文献資料を収集・整理し、利用・保存しています。伊東忠太・ますむらひろしなどの米沢出身者の著作や、米沢の歴史や産業・文化などに関する書籍、米沢地域で発行された本や古文書など、すべて郷土資料です。凶書をはじめ、新聞、雑誌、地図、写真、パンフレットなど多様な資料を集めています。

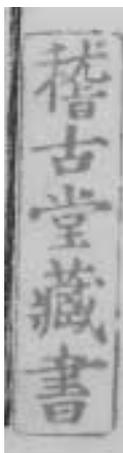
何か情報があればご連絡願います。

さまざまな分野の書籍

この中には鷹山自筆の学校設立趣意書「総評」や師細井平洲筆の「興譲館教育之趣意書」等の貴重な資料がありますが、多くは詩歌集・教養書です。鷹山が少年の頃に学んだと思われる「千字文」や「発音録」等の漢籍、平洲先生の著作本、書道の手本、当時の百科事典「和漢三才図会」、和算の本等、さまざまな分野の書籍が五十音順に納められています。「天学指要」「天経或問」等の天文学に関する書籍が多く含まれる点も注目されます。

「稽古堂蔵書」の印

これらの御手沢本には、「稽古堂蔵書」という朱印（左写真）が押されています。「稽古堂」とは鷹山の書斎の名で、学問を愛し日々勉学に励んだ鷹山にふさわしい蔵書印といえます。



この手沢の付いた書籍群は、学問を愛した名君上杉鷹山が、米沢城内の書斎「稽古堂」で書物を開いている姿をほうふつとさせる、大切な資料といえます。

※本文では「公」等の敬称を略しました。